



呉市民会館 全景

断酒 みどりの友

発行所 呉みどり断酒会
 事務局 呉市 押 込 5-12-25
 渡部 憲方
 郵便番号 737-0915
 電話 33-5571
 発行人 渡部 憲
 (編集代表)
 印刷 松広印刷機

迎春 今年もよろしくお願ひします



何百回も「誓い」は立てたか…

会長 渡部 憲

今年はしようがない。来年からだ。来年こそ酒を止めよう。

飲み納めだ。除夜の鐘が鳴ったらスタートだ！

大晦日恒例の私の決意であり、誓いであった。サントリーレッド

Wサイズを膝元に置いたまゝ、完全に酔いつぶれた私に、いつ紅白

が終ったやら、除夜の鐘が鳴ったやら解るはずがない。

酔っ払いを引きずることほど重たいものはないからか、腹を立て

ているからなのか、結局大晦日は寝床に行くことなくコタツでつぶ

れてしまう。

震える手で、近所の自販機で冷たい缶ビールを買う。すがすがし

い、一年の門出となる元旦の朝であるはずだったのに……。

(あゝ、やっぱり飲んでしまった。今年もダメか……) 情なかった。

泣きたいくらいに自分が嫌になった。(よし、とりえず今年は、明

日の朝から「迎え酒」だけは止めよう！)

飲みかけの缶ビールを団地の草ムラに投げ捨てて、そっ心に誓った。

しかし、あくる日も、その次の朝も、やっぱり同じ自販機の前に

立っていた私。

何百回もの「誓い」でもダメだった私を、救ってくれたのは断酒会

だった。

昭和42年、私が「星影のワルツ」を聴きながら酒の味を覚え始めた頃、『**呉みどり断酒会**』が発足

した。**今年二月四日には、創立40周年記念大会**を迎える。

こんな私でさえ、あの酒地獄から引きあげてくれた断酒会。あの

嬉しさを、また、妻の、母のあの安堵した顔を、一人でも多くの人に

味わっていただきたい。そんな「恩返し」のできる年にしたい。

呉みどりヶ丘病院創立36周年記念特別例会 体験発表



井藤 宏道

皆さんこんにちは、お世話になります。呉みどり断酒会の井藤宏道です。よろしくお願ひします。本日は呉みどりヶ丘病院創立36周年誠におめでとう御座います。心よりお祝ひ申し上げます。この記念すべき日に体験発表の機会を与えて頂きありがとうございます。

私は昭和21年生まれで60才になります。父親は小さな印刷屋をして居りまして、全く酒を飲まない人でした。ですから子供の頃から父親が晩酌をしている姿とか、酒に酔って帰ってくるのかいいう姿を全く見たことがありませんでした。酒にほとんど縁のない環境で育ったもので、私は20才を過ぎても全く酒を口にすることはありません。



せんでした。酒を飲み始めたのは25才で、当時私は食品メーカーに勤めて居り営業の仕事をして居りまして会社や上司から、今から接待やら他にいろいろあるので少しは飲める様にならんといかんと云われて、その頃飲める様になる為にと、酒を飲み始めました。その結果半年位して結構飲める様になり、それが嬉しくて、それ迄は誘われてしか行かなかった飲み会に

も、今度は自分から誘って飲みに行く様になりました。

そして29才の時、人に使われるのが嫌でまた自分の実力を試したくて独立しました。

最初の内は一生懸命働いて良い時期もあったのですが、自己管理ができず世間を甘くみていたせいもあって段々におかしくなってきました。何とか立て直そうと思いましたが、どうにもなりません。酒に逃げる様な飲み方になってしまいました。

その内浴びるほど飲んで体調を崩し40才でアルコール依存症と診断されましたが、その頃、私はその意識は全くなくて飲み続けて居りました。その内にどうにもならん状態になって、呉みどりヶ丘病院に初めて入院しました。そして酒が切れて体も直していただいて、これから酒を止めて再出発しようとして退院したのですが、長くは続かず再び酒を飲み続ける毎日が続き、ついに周りからも愛想をつかされて何もかも失って実家のある呉市に帰ってきました。その時

自分の人生をほとんど投げけてしまったが、借金もありましたし、第一食べて行かなくてははいけませんので、今の会社に就職しました。

しかし、それまでの事をひきずって相変わらず酒を飲み続け平成4年に2度目の入院をしました。



その時、体も良くしていただき退院した時、断酒会に入会して先輩方いろいろな御世話になったにも拘わらず、どうしても自分がアルコール依存症だという事を認めたくなくて一年弱で断酒会を離れてしまいました。そして当然の事ながら、昨年春に入院するまで、7回入院退院を繰り返してきました。その間、おかしくなってきた

パターンは大体決まっています。退院したら3カ月から6カ月位は酒を止めて居ります。その内今度こそ酒と上手に付き合おうと思つて飲み始める訳なんです……。

そして6カ月から1年位は何とかなりです。しかし深酒をして二日酔いの状態になると必ず迎え酒をする様になり、そうなると連続飲酒が始まり、又入院という事で何回も何回も同じ事を繰り返して

きました。その間院内で院長先生のお話を伺つたり勉強させて頂いたにも拘わらず酒害者という事を認めたくなくて、その頃私にとつて呉みどりヶ丘病院は、酒飲んで気違いみたいになっている自分を人間に戻してくれる場所、最後の砦という風に考えてました。

ですから入院して三病棟に入ると酒を切る辛さがあります。反面、これで助かったと「ホッ」とする気持ちになつて居りました。

入院する際、ひどい時には院長先生にお目にかかった時、自分の不甲斐無さと又お手数をかけて申

し訳ないと云う気持ちで土下座して涙を流しながら今度こそ酒を止めます。助けて下さいとお願ひするのですが、三病棟から二病棟に行く頃になると体も良くなつていきますので、入院の時の気持ちを、「コロッ」と忘れて女房に電話して今日退院させてくれ。明日出してくれとうるさく云う様になります。喉元過ぎれば熱さ忘れるで、今考えると恥ずかしい限りです。



昨年春に入院した際に、このま

何とか断酒したいと考えていました。そんな折、院長先生に断酒会に繋がる様に声を掛けていただきたいのですが、失敗したらどうしようとか、本当に出来るんだらうかという気持ちが先に立ち全然自信なく迷っていました。

そして退院当日断酒会の先輩から、とにかく毎週土曜日に院長先生に酒を飲んでない顔を見てもらいに来たらどうだと声を掛けてもらいました。その言葉を聞いて、

今迄何回も助けていただき御世話になった院長先生に毎週土曜日酒を飲んでない顔を見てもらおうと、そういう思いでなら何とか出来る様な気がして、失敗する前から失敗した時の事を考えても仕方ないんで14年振りに断酒会に再入会し例会通いを続けている内に、結構居心地が良くなり院長先生をはじめ、先輩方の話を伺っている内に何とか断酒できるのではなからうかと云う気持ちになつてきました。

現在断酒して一年半になりました。あれだけ止められなかった酒

が止め続ける事ができております。自分でも信じられない部分もあるのですが……。

ここまでくるのに私の場合随分と長いことかかりました。今後自分が酒害者という事を忘れない様に、繰り返し、繰り返し自分に云い聞かせて、断酒会を自分の居場所と決めて例会出席で頑張つていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

何回も入院を繰り返して、どうしようもなかった、私が今、僅かな間ですが酒を止め続ける事が出来ております。そして今は、呉みどりヶ丘病院の36周年の記念すべき日に、院長先生の前で体験発表できた事が嬉しくて仕方ありません。この喜びと感動を決して忘れない様にしたと思つております。最後に院長先生の益々の御勝と呉みどりヶ丘病院の益々の御発展を祈念致しまして、私の体験発表を終りたいと思ひます。

本日は本当にありがとう御座いました。

第43回全国(広島)大会は、秋の10月8日(日)、広島サンプラザホールに於いて、総勢三、六一六名の参加を得て盛大に、且つ肅粛と開催された。



すっかり広島県連のトレードカラー(?)となったグリーンのウインドブレーカーに身を包み、全国の「仲間」を誘い、この日のために西へ東へと足を運んだ二年余りであった。

八時半の開門が待ち切れず、出迎えの長い人垣の中を、「約束通り来たで!」「いよっ!久しぶり」などと笑顔で手を振りながら、次々と仲間が集まった。

大会テーマ「豊かな感性を求めて」サブテーマ「原点への回帰」を掲げ、大会は終始肅粛と、まるで二十数年前の断酒会大会を思い起こさせるような雰囲気ですすんでいった。

家族を中心とした各ブロック代表の体験談には、我々酒害者本人としては、いつになく胸を打たれ大きな感動を受けるものであった。

第43回全国(広島)大会



昼食タイムのアトラクションに出演いただいた地元『太鼓本舗』の皆様の和太鼓の鼓動と熱演ぶりに、会場内から大きな拍手が鳴り止まなかった。ありがとうございました。

「復活」の目玉となったのが会友紹介であった。プラカードを掲げての各県代表の登場。それに合わせて会場内では一つの大きな集団が立ち上がり、場内へ手を振る。会場を取り囲むグリーンのウインドブレーカー。全断連の歌と嵐の

ような拍手。大会ムードはピークに達した。

次期開催地(宮城)アビールで来年の再会を誓い合い、待望の記念講演となった。地元出身で、現在人気絶頂の女優「東ちづる」さんの、自らの人生、アルコール依存症だった父親についてなどの熱弁に、講演終了まで席を立つ者がほとんどいなかった。このことは、主管の広島県連が、後日行われた反省会で一番喜び、評価した現象であった。



「良かったよ」「素晴らしいかったよ」「又来年な」の声を聞きながら見送る広島県連のみんなの顔に、大きなイベントをやり遂げた充実感と、喜びが溢れていた。



大トリは女性全員で大合唱

酒なし忘年感謝会

全国大会の感動と興奮に包まれながら平成18年も残りわずか。

恒例の第40回酒なし忘年感謝会がシテイプラザ スギヤに於いて、呉みどりヶ丘病院院長長尾澄雄先生はじめ、来賓、朋友の出席を得て催された。

2月4日の創立40周年記念大会を控えて、会員家族が更なる団結と融和を強めることができた楽しい感謝会であった。

寄付者御芳名

(八月度)

呉 大下忠志様 一〇、〇〇〇円

感謝箱 五、〇〇六円

(九月度)

呉 藤田数夫様 一〇、〇〇〇円

感謝箱 二、七三六円

(十月度)

感謝箱 二、八九四円

新入会員紹介

●呉市阿賀北一―二七―三二

第3大谷荘 河上貴美雄

●呉市阿賀北一―一五―三四

第2大谷荘 加藤 勝美

断酒継続おめでとう

☆一年	佐伯 忠	8月3日
☆二年	藤田 数夫	8月20日
☆三年	西村 正俊	9月7日
☆四年	野田 吉丸	10月30日
☆五年	中司 仁博	10月25日

8月例会動員数

行事名	回	正会員	家族会員	賛助会員	他会員	院内会員	7-セナー	合計
土曜例会	4	146	58	16	56	293	36	605
水曜例会	5	186	66		3			255
ブロック例会	1	18	14					32
新会員の集い	1	10	3					13
家族の集い	2		30					30
懇談会	1	2						2
特別院内例会	1	15	6					21
創立40周年記念大会実行委員会	1	15						15
第36回山陰断酒学校	1	14	2					16
県連理事会	1	4						4
役員会	1	7						7
合計	19	417	179	16	59	293	36	1,000

10月例会動員数

行事名	回	正会員	家族会員	賛助会員	他会員	院内会員	7-セナー	合計
土曜例会	4	146	59	14	63	288	80	605
水曜例会	4	156	46					202
ブロック例会	1	22	12					34
新会員の集い	1	13	5					18
家族の集い	2		25					25
懇談会	1	2						2
特別院内断酒例会	1	26	9					35
第43回全国(広島)大会	1	47	22					69
第16回中国ブロックセミナー	1	1	1					2
県連理事会	1	4						4
役員会	1	7						7
合計	18	424	179	14	63	288	80	1,048

9月例会動員数

行事名	回	正会員	家族会員	賛助会員	他会員	院内会員	7-セナー	合計
土曜例会	5	195	83	21	84	340	75	798
水曜例会	4	139	53	2	4			198
ブロック例会	1	21	12					33
新会員の集い	1	9	4					13
家族の集い	2		28					28
懇談会	1	2						2
特別院内断酒例会	1	16	5					21
創立40周年記念大会実行委員会	1	14						14
第36回県連研修会	1	14	2					16
県連理事会	1	5						5
役員会	1	7						7
合計	19	422	187	23	88	340	75	1,135

行事予定

○平成19年新年合同初例会

1月4日 呉みどりヶ丘病院

○呉みどり断酒会

創立40周年記念大会

2月4日 呉市民会館

○山口県やわらぎ断酒会

創立40周年記念大会
2月25日 山口県総合保健会館

社団法人 全日本断酒連盟

呉みどり断酒会

創立40周年記念大会

大会テーマ 「初心」

とき 平成19年2月4日(日) 11:30～16:00

ところ 呉市民会館

記念講演 『四十年みどり断酒会とともに歩んで』

全断連顧問

呉みどりヶ丘病院院長 長尾澄雄 先生